第四十八圖　大孤父面（第百十九號）

大さ　竪　外内　三四・〇糎　横　外内　一六・〇糎（頭と下顎とに）

長頤老人相、額の皺の複雑のためか変い顔に見える。彫刻は粗であるが目鼻口は形通りに透し、頬は黒く、顔は白く塗り、目に緑青、唇に朱を彩る。眉に植毛の痕があり、口ひげ頤ひげ頬ひげもあつたらしいが、その巻頭を二段に彫つて毛を巻るようにしているのは、普通と異る技巧である。

大孤父面（第八十五號）

大さ　竪　内　三九・〇糎　横　外内　二七・〇糎（頭と下顎とに）

長頤老人相、厚手の作で眼鼻口の五孔を透し、又頬に大きく三角形を透す。頬は木地のままで、額は粉地に黄褐色を塗り、唇に朱、目に緑青を彩し、頬に紅を塗かず。又眉毛、口髭、頤髭には白毛を植えた迹が残る。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第四十九圖　大孤兒面（第十九號）

大さ　竪　内　三・三糎　横　外内　一・九三・五六糎（頭蓋入らず）

目・鼻・口の五孔を透し、全面丹の其（淡紅色）を塗り、髪際と眉とには墨で毛筋を描き、目には緑青、瞳に灰黑色、唇に紅を塗り、頬・耳・人中には赤色を彩してゐる。又頁には毛を植えたあとがあり、後頭部の縁には連續せる小孔を穿ち、右頬うらには「大日御作」の墨書もある。この面は御物中でも稀に見る優秀作である。

大孤兒面（第百二十三號）

大さ　竪　外内　現不明・三・三糎　横　外内　一・六六・二糎（頭蓋入らず）

口から下が欠失してゐるが、眉、目、鼻口の彫刻が前者と極似するのみならず、彩色までも同じである。恐らく二面一具として作られたものであらう。ただ異るは耳朶に貫孔ある事と頭頂横毛の中央に金銅圓板を打つてゐる事である。金銅圓板は前者にもあつたであらう。

第四十九図　人頭犬面

人頭犬面

（第一～第三）

ちがいがあるが、

生成の第一段階にあるものと、第二段階にあるものとの中間に位置するものである。

第一段階にあるものは、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

口を中心に、「ゴ」の字の口を中心に、

第五十圖　大孤兒面（第百十四號）

大さ　竪　内 一三・三糎　外 二七・〇糎　横　内 一五・二糎　外 二〇・〇糎（頭這入らぬ）

白面少年相、後頭部まで一木から彫成した薄手の作である。頭は黒漆塗、顔は胡粉塗で、眉毛を墨書、唇には朱を彩し、目と歯は胡粉を塗りその歯並みを銀泥で描く。なお頭部頂上には毛をおかつぱにおいた痕が殘る。

大孤兒面（第八十號）

大さ　竪　内 二二・二糎　横　内 一六・〇糎　外 二二・〇糎（頭が這入らぬ）

前者に比べて頬が幾分こけてはいるが、目鼻口の彫刻、耳の形、彩色の樣子、眉の毛書き、頂上に髪を植えた形迹のある事まで、全く一致し、兩者一具の孤兒面である事が察せられる。　なおこの面の左頬耳下には［太□］の墨書がある。

第五十圖　大　孤　泉　面（第八十號）

（第四十四號）

第五十一圖　大孤兒面（第二十三號）

大さ　竪　内二二五・八糎　外二八・〇糎　横　内一五・〇糎　外一六・五糎（頭が辛じて入る）

白面少年相、後頭部まで一木で彫成し、眼鼻口の五孔を透す。製作は粗雑で、頭は黒く塗り頂上髪を植えて銅圓板をうち、顔は胡粉塗して唇を赤に染め、眉と眼縁と歯並とを黒線で描く。

大孤兒面（第五十四號）

大さ　竪　内二三・〇糎　横　内一五・五糎（頭が辛うじて入る）

白面少年相、頭は黒塗り、頂に髪を一段に植えて銅圓板をうち、顔は胡粉塗りに、黒線をもつて眉目の輪郭と歯並とを描き、唇に朱を塗り、彫刻の技巧、彩色の實際等共に、前掲の第二十三號面と一致するは、また兩者一具の面として造られたものと思われる。

第十五章　面　犯罪人

第二章　面　犯罪人

第五十二圖　大孤兒面（第九十三號）

大さ　竪　内　一八・〇糎　横　内　一五・〇〇糎　外　一七・〇糎（頭が嵌入らぬ）

白面少年相、頭は黒く塗り頂に毛を植えて金銅圓板を打ち、顔は胡粉に塗つて眉、眼縁とを黒線でかく。これら何れも耳の彫刻と相俟つて前掲第二十三號並五十四號の二面と似るが、彼等が唇を開き齒並を現わしているのと異り口を閉じている。從つてこれは眼と鼻孔の四孔のみを透す。

大孤兒面（第十號）

大さ　竪　内　二二・〇糎　横　内　一五・五糎　外　一八・五糎（頭が挿して入る）

眉を立て眼尻を下げ憂いの相をなし、目と鼻の四孔を透す。頭は木地のままであるが、顔は胡粉地に肉色を塗り、口には朱を彩し、眼縁は墨でくまどり、眉は毛筋を墨で描く。なおこの面の内側中央に「大孤□」右頬裏に「讃岐」の墨書がある。

[illegible]

[illegible]

大 蔵 [illegible] 宣 [illegible]

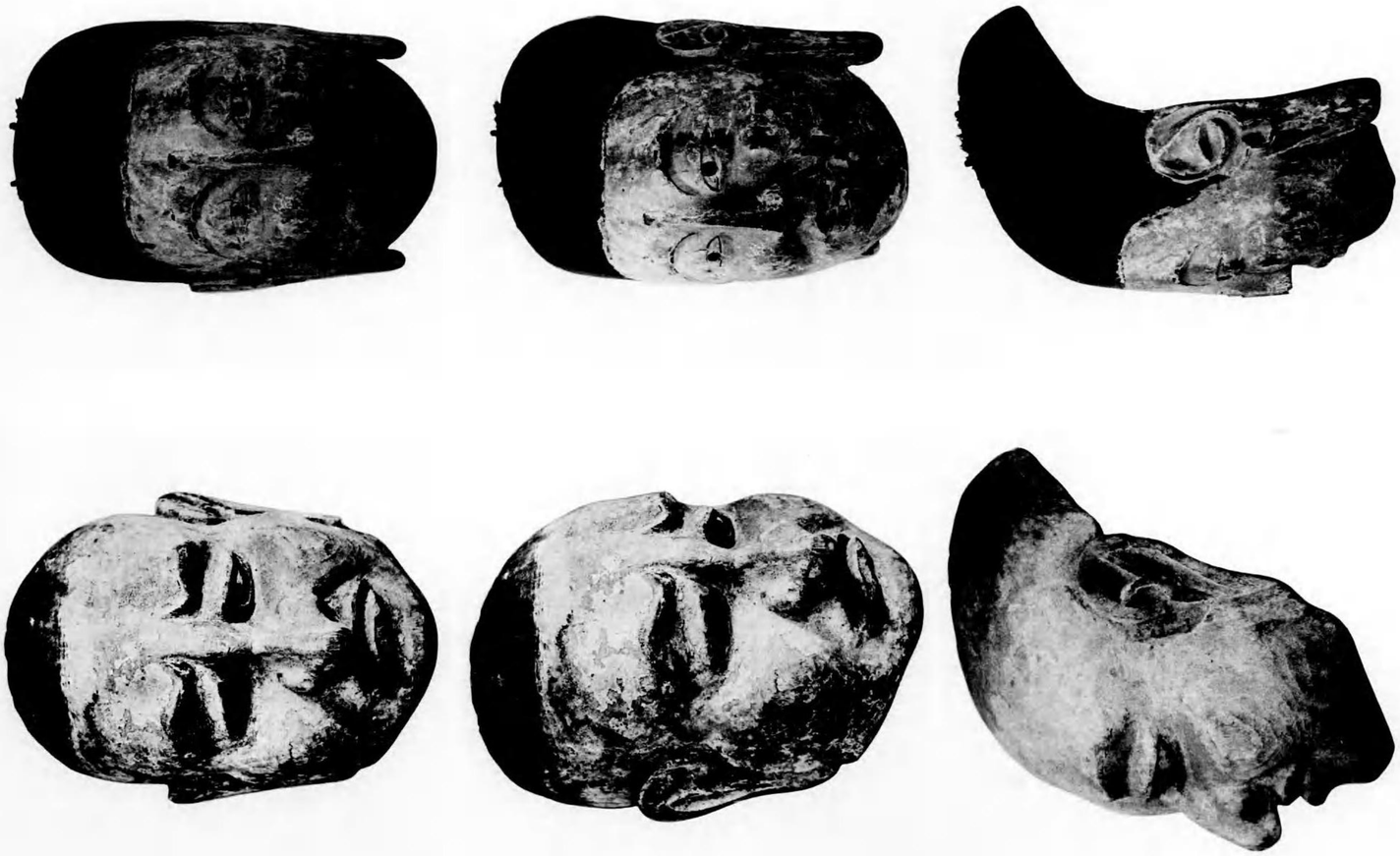
[illegible]

[illegible]

大 蔵 [illegible] 宣 [illegible]

[illegible]

大 蔵 [illegible] 宣 [illegible]



第五十三圖　大孤兒（第九號）

大さ　竪　内二二・五糎　外二三・〇糎　横　内一四・五糎　外一五・五糎（頭が嵌入らぬ）

白面童子の相、兩眼の二孔を透すのみで、顏全面に胡粉を塗り、目は黑線で隈どり、眉は墨で描く。今は後頭を失うが、接木して作られていたらしく布張の痕が殘る。なおこの面の內側には鼻裏に麻布を貼り、その上方に「天」左脇に「上野」左頰裏に「大孤兒」の墨書がある。圖版向つて左はその墨書を原寸大に撮したものである。

大仏殿内部（南面）

大仏殿内部（北面）

（奈良八重）

図三十三　大仏殿

第五十四圖　醉胡王面（第四十七號）

大さ　竪　内二六・〇糎　外三八・〇糎　横　内二六・七糎　外三二・〇糎（頭に丁度よい）

鳥帽子形の冠をつけた有髯長鼻の大人相をなし、後頭部まで一木で彫成するが冠の上部は接木している。目口鼻の五所を透し、顔には赤の具を塗り眼は銀、唇は紅に彩り、眉毛は墨で描くが、口髭頤鬚頬髯は何れも黒き毛を植え、耳朶には貫孔を作る。又冠は赤地に繧繝彩の花卉唐草文を描く。なお左頬裏には墨書銘があるが判讀し難い。

『福全文』の『東北地方』は、『福全文』の『東北地方』は、『福全文』の『東北地方』は、

第五十五圖　醉胡王面（第四十七號）

前掲醉胡王面の正面と側面を示す。

醉胡王面（第五十三號）

大さ　竪　内　三六・〇糎　横　内　一八・五糎　外　二三・五糎（頭に丁度よい）

頬の豊かな精力的な相をしている。目鼻口の五所を透し、顔には粉地に蘇芳色を塗り、目は銀、唇は朱を彩し、眉毛・口髭・頤髭・頬髯は何れも細かく墨でかく。冠は粉地に緑色を塗りその上に花文を彩畫したらしいが、兩側面は剝落してわずか正面にのみその片影を殘す。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第五十六圖　醉胡王面（第三十二號）

大さ　竪　内　三六・〇糎　横　内　一八・〇糎（頭と下唇とを）

桐の一木彫成で、その全體の姿は第五十四圖の醉胡王面に似る。口鼻口の五所を透し耳朶に貫孔を穿つ事も彼と同じであるが、これは木地のままで彩色なく、僅かに冠の右側面に鳳凰の飛翔するを墨で描いている。

なお右類裏に「作惹坂觀貫功九人」の墨書がある。

醉胡王面（第六十一號）

大さ　竪　内　三三・五糎　横　内　一八・〇糎（頭と大き過ぎる）

冠の上部を缺損するが姿は前掲第三十二號面に似る。薄手の作で口鼻口の五所を透し、顔には胡粉を塗り、唇は朱芳に染め、眉毛を墨で描く。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第五十七圖　醉胡王面（第六十號）

大さ　竪　内　三三・五糎　横　外内　二一八・〇五糎（面に一度上じ）

白面長鼻の老人相をなし、額には三段の皺を刻し、目鼻口の五所を透して、額には胡粉を塗り、目と歯は朱、唇には朱を彩り、口髭は無く頤鬚のみ植毛している。冠は吹返しある鳥帽子形のもので、その三面には繊芳地に唐花文をあらわし、吹き返しには緑青を塗る。

醉胡王面（第十五號）

大さ　竪　内　三八・〇糎　横　外内　一一九・〇〇糎（面に大きさる）

正倉院の伎樂面中、彫刻的に最も手のこんだ面で、材質的にも桐・桜・杉の各材を用いている。眼鼻口の五所を透し、額には胡粉を塗り唇に朱彩を施すが、頤鬚は前期四十八回の大孤父面に見られる特殊な方法で頤に切り込みをしてそこに植毛している。彫刻には特に意を用い、中子を嵌つてその正面に虎、左右の側面に羽獣を彫出し、中子に類彼には胡粉地に彩色を施いている。かくの如くこの冠に虎、獅、豹色のあらわされている事は、西大寺蔵妙峰の醉胡王面に酷似し、なおこの面の左頬裏に「相撲國」の墨書がある。

第五十七圖　鍾馗王面

第五十八圖　醉胡王面（第四號）

大さ　竪　内　三八・〇糎　横　内　一七・〇糎（頭に丁度よい）

一木を筒狀に刳り、頂上と幅子前板を接木して造る。目鼻口の五所を透し、全體に胡粉を塗つて、幅子には四瓣花文を散らし、顏には眉毛・口髭・頤鬚・眼蓋・眼玉・齒並等を墨で描く。なお脣に朱を塗り、右頰裏には「隨羣□」と墨書している。

図八十五番　猟　別　王　面（表）

ものとして世界に類例を見ない。「日本書紀」に「蝦夷の人、俗、性、勇悍なり。一人、能く百人に当たる。これを以て、威を国内に張る。ここを以て、蝦夷・熊襲・隼人、皆、来りて朝す。」とある。

第五十九圖　隨群面一類（第九十二號）

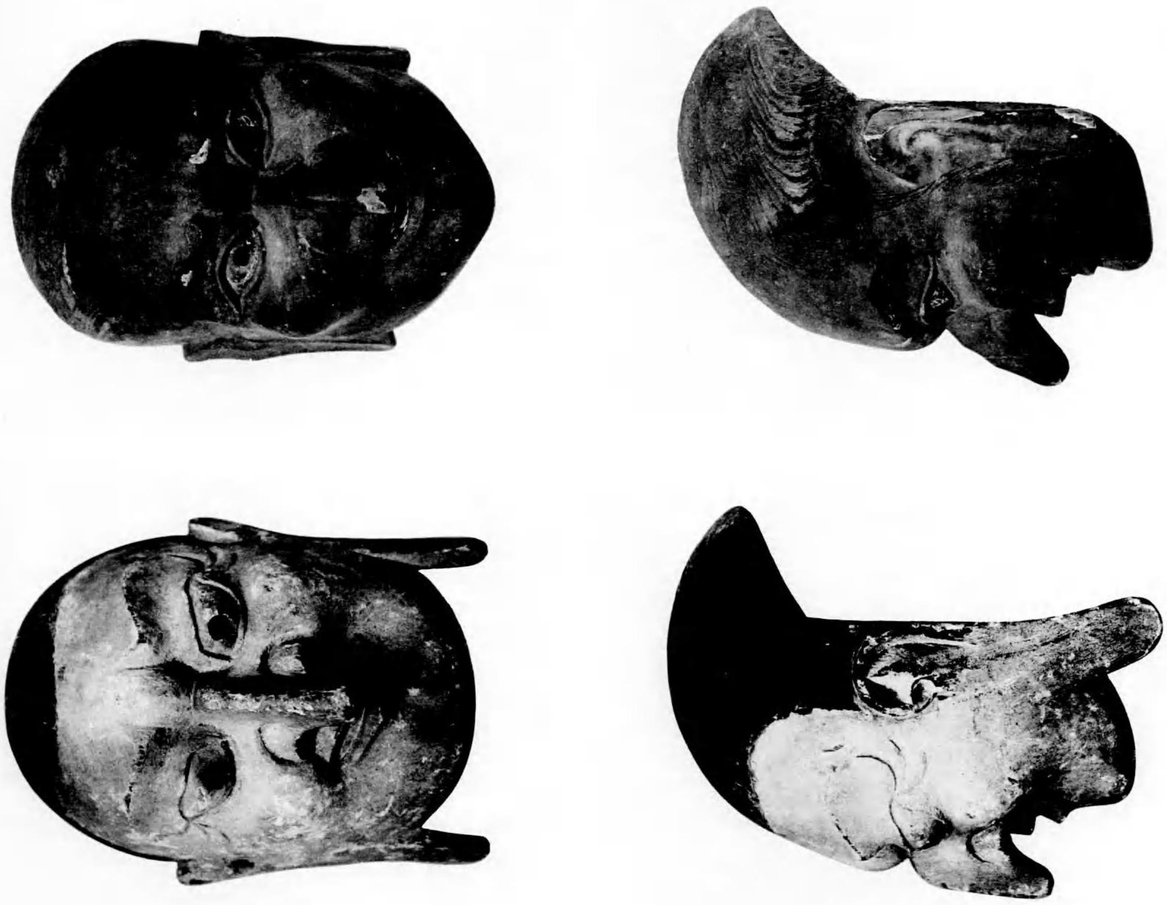
大さ　竪　内　二五・〇糎　横　内　一六・五糎　外　二〇・〇糎（頭が辛じて入る）

木彫に乾漆を併用した厚手の面で、目鼻口の五所を透し、顔は黒漆地に丹を塗り、墨で眉毛・口ひげ・あご髭・髪際の亂毛を描き、且つ唇に朱、歯と目縁に肉色を塗り、頂には茶毛を三段に貼る。なおこの面の左頬裏には「延彫」の墨書がある。

隨群面一類（第六號）

大さ　竪　内　二六・〇糎　横　内　一七・三糎　外　二〇・五糎（頭に丁度よし）

目鼻の四孔を透した薄手の面で、頭は黒漆塗、顔は胡粉を塗つて、目口等にも別に彩色はないが、その右頬裏には「隨群」の墨書があり、この式の面を隨群と稱せられた事を知る。



第十七圖　圖版目録（第十七）

第十八圖　圖版目録（第十八）

第六十圖　隨群面一類（第九十四號）

大さ　竪　内　三七・五粍　横　外内　二七・五粍（頭と丁度よい）

少し長顔ではあるが目鼻口の一つ一つの形は前掲六號の隨群面と甚だ似る。又彼と同様目鼻の四孔を透し、今は剝げてはいるが顔を胡粉に塗つた痕迹も見られる。後頭部を失うが布目の殘存によつてもと挿木してあつた事が知られる。

隨群面一類（第八十七號）

大さ　竪　内　三七・五粍　横　外内　二三七・〇五粍（頭に大き子さる）

顔の詰木が脱落しているが、眼鼻口の五所を透し、顔は粉地に丹を塗り、目を浪にして白玉に縁取の界圏を描き、唇に朱を彩し、眉毛口鬚頤鬚と髮際の亂れ毛とを共に墨でかく。なお頭頂には二段に坊毛の痕がある。この面の相貌彩色共に前掲九十二號面に似る。

第六十圖　鍾馗面一建（第六十四圖）

第六十一圖　隨群面一類（第二十九號）

大さ　竪　内　三五・五糎　横　外内　三九・〇糎（面と丁度よし）

美作濃手の面で目尋口を透し耳朶に貫孔を作る。全面黒漆地に丹を塗り、唇に朱を彩し歯は胡粉塗りして歯並みを表出し、眉毛・口髭・頤髭・鬢は毛筋を表でかゝ、又頂に毛を貼り、左頬裏に「作大田後藤、十日作了」と墨書している。

隨群面一類（第二十八號）

大さ　竪　内　二九・〇糎　横　内　一八・〇糎（面と丁度よし）

前掲面に比べて鼻が大く短いが、眉目口耳の表出と甚だ似る。顔は粉地に丹を塗り、眼と歯に黒、口唇に朱を彩り、眉・ひげ・鬢は墨でかゝが、その描線は前者に比して より自由である。右頬裏に墨書あり「作大田和藤功七人□」とよまれる。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六十二圖　隨群面一類（第八十一號）

大さ　竪　内　二四・〇糎　横　内　一七・〇糎　外　二一・〇糎（頭に丁度よし）

赤面長鼻の壯者相で、目鼻口を透し、頂は素地のままにし顔には丹を塗り、眉・口髭・頤髭を墨でかき、唇に朱を施す。但し今は鼻の頭と後頭の一部を欠失している。

隨群面一類（第三十三號）

大さ　竪　内　二六・〇糎　横　内　一九・五糎　外　二三・五糎（頭に丁度よし）

赤面長鼻壯者相、眼鼻口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。鼻の表現最も力強く、全面粉地に丹を塗り、眼と齒に銀、口唇に朱彩を施し、眉毛、口髭・頤髭・頰髯を墨で描く。毛筋の線描甚だ淵達である。なおこの面の右頰裏には「作□功八人□」の墨書があるが、肝心な作者名は判讀出來ない。

第六十二圖　國寶面　一　西（第六十一圖）

第六十三圖　隨群面一類（第百二號）

大さ　竪　内二五・〇糎　外二九・〇糎　横　内一五・〇糎　外一九・〇糎（頭が這入らぬ）

厚手の面で、目鼻口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。顔には黄土の具を塗り、鼻は普通で、眉はさか立ち、目と歯は銀、口には紅をさし、又頬と耳には紅を暈かしている。鼻の普通であるのと大人の頭の這入らぬ事とは、隨群でないかもしれぬが、しばらくここにおく。

隨群面一類（第百四號）

大さ　竪　内二八・〇糎　外三五・五糎　横　内一七・〇糎　外二二・〇糎（頭に丁度よい）

鼻と後頭部の全部を失う。赤面壯者の相をなし、粉地に丹の具を塗り、眼と歯を銀、唇に朱を彩り、眉とひげは墨で描く。眼と鼻と口の五所を透し、耳朶に貫孔を作る。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六十四圖　隨群面一類（第百五號）

大さ　縱　外内　三百元・〇〇糎　横　外内　二一六・六五糎（面上下度より）

赤面長鼻壯者相、眼鼻口の五所を透した厚手の面で、耳朶に貫孔を作り、頂に毛を貼つた形跡がある。顔は胡粉地に丹を塗り、墨で眉とひげと髪際の頭髪とを描く。又眼と歯には黄泥を塗り、唇には朱を彩る。

隨群面一類（第六十七號）

大さ　縱　内　三百・〇糎　横　外内　二一六・五五糎（面上下度より）

厚手の面で兩眼と兩鼻孔を透し、額と頬に皺を作り、長鼻老人の相をあらわす。頂は木地のままで顔には胡粉地に丹を塗り、唇に朱、目を黒にして、眉とひげは墨で描く。

鐵一面雜鬼　陶面十六枚

大きさ　縦　横　厚さ

[illegible]

[illegible]

鐵一面雜鬼

大きさ　縦　横　厚さ　二二・〇糎（裏二十一・〇）

[illegible]

[illegible]

第六十五圖　隨群面一類（第百十一號）

大さ　竪　外内　三六・〇糎　横　外内　二一・七〇糎（面上下更よし）

赤面壯者相、厚手の作で、口を閉じ目鼻の四孔を透す。顔には粉地に赤の土を塗り、眉とひげは墨でかき、唇には朱を塗る。頭は木地のままで、頂にモを貼り銅回板を打つたかたが殘る。

隨群面一類（第六十九號）

大さ　竪　内　三五・五糎　横　外内　二一・〇七〇糎（面上下更よし）

赤面壯者相、厚手の作で、目鼻口の五所を透し、顔には粉地に丹を塗り、唇と頬には更に朱を施す。目と歯は銀に塗り、眉と髭は墨でかく。又頭は木地の儘であるが頂にモを貼り銅回板を打つたかたが殘る。後頭部下緣には連續する小孔を穿ち、全體的にも細部的にも前掲隨群面（第百十一號）と甚だ似る。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六十六圖　隨群面一類（第六十六號）

大さ　竪　内　二五・〇糎　横　内　一六・五糎　外　一九・八糎（頭に丁度よい）

赤面壯者相、厚手の作で眼鼻の四孔を透し、頭は木地のままにして、顔には胡粉地に丹を塗り、更に頬と唇に朱を施し、眉とひげを墨でかく。又後頭部には連續せる小孔を穿つ。

隨群面一類（第九十號）

大さ　竪　内　二七・五糎　横　内　一七・五糎　外　二二・五糎（頭に大きすぎる）

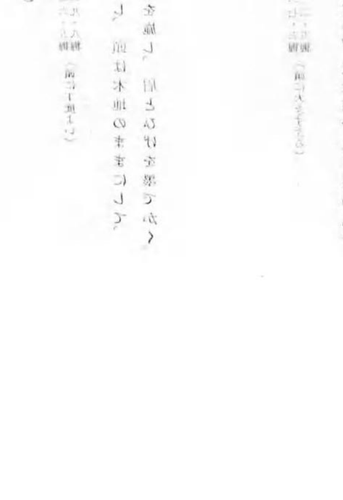
赤面壯者相、眼鼻の四孔を透した薄手の面で、顔は胡粉地に黄褐色を塗り、目には銀泥唇と頬と額には朱を彩り、眉とひげと髪際には毛筋を墨でかいている。なお頭には毛髪を三段に貼り、後頭部には連續せる小孔を穿つ。

小さな特徴は二段に彫り分けられている。ちょうど三段に分けられた面の中段に当たる部分に、目、鼻、口、耳などが集まっている。顔を半分に割ったとしたら、その中央に当たる部分に、目、鼻、口、耳などが集まっている。顔を半分に割ったとしたら、その中央に当たる部分に、目、鼻、口、耳などが集まっている。

大きさ　縦　百二十二センチ

鍾馗面一面（雑題）

（第十九章）



大きさ　縦　百二十センチ

鍾馗面一面（雑題）

（第六十六章）

第六十七圖　隨群面二類（第六十八號）

大さ　竪　内　二五・〇糎　横　内　一七・〇糎　外　二一・五〇糎（頭に丁度よし）

目と口もとに皺をよせ、鼻がかぎのように曲つた面で、目鼻の四孔を透し、頭は黒く、顔は胡粉で白く塗つている。なおこの面の右耳には「隨群」の墨書があり、この種の面もまた隨群の一種なる事を知る。

隨群面二類（第七十七號）

大さ　竪　内　二四・〇糎　横　内　一七・五糎　外　二一・五糎（頭に丁度よし）

目と口もとに皺をよせ、かぎ鼻を作ること前掲面と甚だ似るのみならず、目と鼻の四孔をのみ透し、頭を黒く、顔を白く塗つているのも彼と同じである。但し皺の數は彼より多い。

第六十七圖　鬪雑面二種（第六十六表）

第六十八圖　隨群面二類（第十六號）

大さ　竪　内　二六・〇糎　横　内　一八・〇糎（頭に丁度よい）

長鼻老人相、口を閉じて目鼻の四孔を透し、顔には黒漆地に丹を塗り、目は銀、唇と耳孔には朱を彩し、眉とひげは墨でかく。頭には毛を三段に植え頂に金銅圓板をうつ。なお面の内側中央に「東大寺財福師作」左頬裏に「裏」字の墨書がある。

隨群面二類（第八十九號）

大さ　竪　内　二五・五糎　横　内　一九・〇糎　外　二四・〇糎（頭に丁度よい）

長鼻老人相、目鼻口を透し耳朶に貫孔を作り、後頭部に連結せる小孔を穿つ。顔は黒漆地に黄赤色を塗り、目に銀、唇に朱を彩し、且つ耳内の皺や頬の皺にも、朱線を隈どり、眉ひげ頭髪は墨でかき、頂上髪を三段に植えて中心に金銅圓板をうつ。なお面の内側中央に「東大寺」の墨書があり、前掲十六號面と甚だ似る。面親には小異はあるが、兩面一具として作られたものかと思われる。

第六十八圖　鐵鉾面二頭

第六十九圖　隨群面二類（第五十七號）

大さ　竪　内　三五・〇糎　横　内　二七・〇糎（頭二下座上）

長鼻老人相、目鼻口の五所を透した厚手の面で、頭には三段の髪を結び頂に金銅冠板をうち、顔は黒漆地に丹を塗り、唇に朱、歯に銀を塗り、眉・ひげ・髪際の毛を墨で描く。又面内側には「東大寺延均師」の墨書銘がある。

隨群面二類（第二十五號）

大さ　竪　外内　三三・〇糎　五・〇糎　横　外内　二六・五糎　五・三糎（頭に大きな穴あり）

長鼻中老の相で、目鼻口を透し耳朶に貫孔を作る。顔には黒漆地に丹の眉を塗り、唇に紅、歯に銀を彩り、眉とひげは墨でかく。頂に茶褐の髪を植え、面内側には「東大寺前一□將軍魚成作、天平勝寶四年四□□」の墨書銘をかく。

第七十圖　隨群面二類（第三十八號）

大さ　竪　内　二六・〇糎　横　内　一七・五糎（頭に丁度よい）

赤面壯者相、目鼻の四孔を透し、頭には髪を三段において頂に金銅圓板を打ち、顔には黒漆地に丹を塗り、眉・ひげ・髪際の毛を墨でかき、唇を朱にいろどる。面裏中央に「東大寺後□」の墨書がある。

隨群面二類（第四十二號）

大さ　竪　内　二六・〇糎　横　内　一七・二糎（頭にゆるい）

赤面壯者相、眼鼻を透し、頭は黒漆塗に髪を三段に植えて金銅圓板を伏せ、顔は黒漆地に丹を塗り、髪際の毛・眉・ひげを墨書して唇に朱を塗るなど、全體的にも細部的にも前掲第三十八號面と甚だ似る。ただこれは眼を銀にし、面裏中央に「東大寺」とのみ墨書している。

第九十圖　腦蓋骨二種（第二十八號）

昭和二十八年一月十六日印刷
昭和二十八年一月二十五日発行
第拾七輯（定価金五千円）
著作権所有　文化財保護委員会
編集　東京国立博物館

編集　東京国立博物館
発行兼印刷者　文部省保護委員会
東京都千代田区麹町区
（四十五銭　送料金五十円）
昭和二十八年一月二十五日発行
昭和二十八年一月十六日印刷

落